

国語 第3学年 相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く。学習の記録は、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)キ	キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

単元の目標

丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（〔知識及び技能〕(1)キ）

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（B(1)エ）

来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ）	①「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）	①来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確認めながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全4時間（書4）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3 （本時）	○教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。案内の下書きを読み合い、必要な情報の抜けと言葉遣いを直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	4	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(B(1)エ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」 【めあて】来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・自分は知っているが相手には説明が足りない。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」 教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。案内の下書きを読み合い、必要な情報の抜けと言葉遣いを直す。 読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・自分は知っているが相手には説明が足りない。 ・同じことを繰り返している。 ・順を変えると出来事が分かる。	教師作成の短い案内で、日時が抜けた文と語が重複した文を比べる。読み手の質問を記録し、書き手が目的を確認して採用する修正を選ぶ。 想定する難しさ：誤字だけを見て内容の不足を残す、理由なく友達の文を直す。 評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・順を変えると出来事が分かる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

板書の構造 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」。中央は、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書か

ら必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

誤字だけを見て内容の不足を残す、理由なく友達のを直す。この難しさには、教師作成の短い案内で、日時が抜けた文と語が重複した文を比べる。読み手の質問を記録し、書き手が目的を確認して採用する修正を選ぶ。評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えているかを、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年上巻」60行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

